

群馬県立大泉高等学校 学校評価一覧表 (令和5年度版)

羅 針 盤			方 策
評価対象	評価項目	具体的数値項目	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	○科目選択や習熟度による少人数授業に80%以上の生徒が満足している。	○自ら選択した科目への意欲と期待、並びに習熟度別少人数授業の利点を生かし、主体的に対話的な学びを推進する等授業の充実に努める。 ○主体的に取り組ませることを前提として事前説明を行い、適切な目標を設定するようサポートする。 ○適切な評価方法を設定し、指導と評価の一体化を意識して指導の改善に取り組む。 ○各々の学科において、重点目標の達成を目指し、具体的かつ計画的に授業や特別活動、研究活動を推し進める。 ○各々の学科において、それぞれの重点目標の達成を目指し、時代の変化を考慮しながら教育課程の見直しを行う。
		○「総合的な探究の時間」「総合実習」「課題研究」のいずれかについて、主体的に取り組んだと答えた生徒の割合が80%以上である。 ○自分が所属する学科の教育活動にやりがいを感じている。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	○75%以上の生徒が「授業がわかりやすい」と答えている。 ○70%以上の生徒が、何らかの資格を取得していたり、資格取得に向けて取り組んでいる。	○各教職員がわかりやすい授業づくりのための工夫を図るとともに、全体研修も推進する。 ○資格取得について、各学科で計画的に啓発的指導を行う。 ○ICTを活用して、わかりやすく、協働的な学びが実現できるよう心がける。 ○生徒が意欲的に学習へ取り組んだり、達成感を感じられるような授業を推進する。 ○担任と教科担当者が連携を図りながら成績不振者に対する指導を計画的に実施し、改善を図る。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	○70%以上の生徒が、前向きな気持ちで授業に取り組んでいる。 ○各学期の定期考査の結果、成績不振者が10%以下である。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	○職員会議や学年会議等で、生徒に関する情報交換を月に3回以上実施する。	○生徒の指導にあたっては迅速に確実な情報を収集し、客観的かつ公平な判断を行いながら指導にあたるよう留意する。生徒指導に関する情報は慎重かつ積極的に共有を進め、組織的な対応に役立てる。 ○主にLHR等を通じて、生徒指導部を中心にいじめ防止についてしっかり取り組んでいることを認識させ、学校全体でいじめを許さない雰囲気をつくる。 ○職員は生徒に寄り添った指導を心がけ、受容的な態度で生徒に接するようにする。教育・発達相談係を中心に組織的な対応を行い、時にはSCやSSWと連携しながら実績を重ね、対応力と信頼を高めていく。 ○遅刻や欠席が多い生徒に対し、保護者への情報提供を行い、改善を促す。 ○面談や指導の中で遅刻や欠席の原因を探り保護者と連携して指導に臨むほか、場合によってはSCや医療へ繋げ、早期の改善を図る。 ○部活動や研究活動の成果をHPやClassroomで生徒に伝え、部活動に対する肯定感を向上させる。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	○いじめについて、学校は解決に向けて取り組んでくれると認識している生徒が85%以上である。 ○教育相談体制が十分であり、80%以上の生徒が職員を信頼して相談できると感じている。	
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	○1日の遅刻者数及び欠席者数がそれぞれ平均して6人以下である。 ○部活動や農業クラブ研究部に60%以上の生徒が所属している。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	○進路情報の提供や進路行事が役立っていると評価する生徒が75%以上である。	○学年と連携を図り3年間を見据えた計画的な指導を行う。 ○保護者に対する情報提供を積極的に行い、本校進路指導への理解について向上を図る。 ○進路指導部だけでなく各教科や特別活動等でも自己の生き方や進路について指導する。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	○「自己の生き方」「将来の職業」等について70%以上の生徒が真剣に考えている。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	○webページを月平均5回以上更新し、本校の教育活動の周知を図る。 ○本校からの情報発信に保護者の80%以上が満足している。	○広報係を中心に、各行事担当や各分掌からの記事を掲載するほか、過去の記事を見直し適時更新を行う。 ○教務部庶務係をはじめ、各分掌が実施する学校行事に応じて積極的に情報提供を行う。 ○保護者宛の通知を発送した際には、その旨を一斉メール等で知らせることをこころがける。
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	○ICTを活用した授業や、学習支援ソフトを用いた個別最適な学びに対して満足と答える生徒が70%以上である。	○学習指導部を中心に「ICTの効果的な活用を含めた『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」の推進を図る。 ○授業においてGoogleサービスやスタディサプリ等を活用することを目指す。 ○授業や会議においてGoogleサービスを活用することを推進する。日頃の朝会や施設予約、情報伝達についてはグループウェア「kinako」やGoogleクラスルームを活用し、利便性を向上させる。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	○ICTを活用した業務改善が進んでいると、職員の80%以上が感じている。	
※各学校で必要に応じて評価対象を加える。			

群馬県立大泉高等学校 学校評価一覽表 (令和5年度版)

点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
自己評価	外部アンケート等	総合		
A 93.1%	A 95.1%	A	<p>○自ら選択した科目への意欲、習熟度別少人数授業に対する満足度は良好であった。専門的な科目に対する学習意欲は総じて高く、生徒や保護者からの期待が高まる。今後も時代の変化に即した学習内容の改善を図り、充実した教育を推進したい。</p> <p>○「総合的な探究の時間」「総合実習」「課題研究」等、自ら主体的に学ぶ科目の満足度は高かった。これらの科目において主体的に学ぶ態度を向上させ、学習活動全般に対する意欲を向上させていきたい。</p> <p>○学科の教育活動は座学と実習や探究活動が織り交ぜられており、生徒の知的好奇心や達成感を高めやすい。外部連携や校外見学も学習効果が高いと思われる。今後も学科の特色を生かし、学習活動を幅広く展開していきたい。</p>	<p>近隣市町と連携した取組も積極的に取り組んでおり、他の高校にない特色のある取組をしている学校であると高く評価できる。アンケート結果も良好である。引き続き推進していただきたい。</p> <p>各科目とも生徒自身が意欲を持って学ぶ教育指導が行き渡っているように思う。今後も幅広い学習活動及び主体的に学ぶ態度向上の教育をお願いしたい。</p> <p>個々の生徒が目標目的を持って学習を進めてほしい。</p>
A 100%	A 96.7%	A		
B	A 92.5%	A		
B	A 89.8%	A	<p>○わかりやすい授業づくりには職員全体が取り組んでおり、生徒の約9割が肯定的に評価している。しかし教師自身は自信を持っていない者も少なくないようであった。</p> <p>○資格取得については定期的に案内しているが、1割の生徒は資格取得に取り組む予定がないと回答した。資格取得について各学科の指導を見直していきたい。</p> <p>○ICTの活用についても、生徒からの評価は高いが、教師の自己評価は比較的高くない傾向が見られる。</p> <p>○2学期末の成績を見ると、成績不振者数は目標を達成している。</p> <p>○授業について生徒の評価は概ね高いが、教師の自己評価は低い傾向が見られた。校内研修や授業改善資料の提供等をおとして、より分かりやすい授業の展開を学校全体でサポートしていきたい。ICTの活用について引き続き推進するが、そのことが職員の負担増や自信低下につながらないように配慮していきたい。</p>	<p>学習支援デジタル教材を積極的に活用しており、アンケート調査においても約9割の生徒が授業がわかりやすいと回答していることから全体的に効果的な指導が行われていると思われる。先生の熱心な指導と生徒が意欲的に取り組んでいる成果である。</p> <p>生徒が前向きに取り組んでいるか？という羅針盤に対して、ICTの活用が評価されポイントが下がっているのは観点がズレてしまっていないか？全般的にはあと一息、改善を進めていただきたい。</p>
C	C 46.2%	C		
B	A 86.2%	A		
B	A 7.4%	B		
A	A 月4回以上	A		
A	B 83.3%	B	<p>○生徒の指導及び情報共有については優先的に、緊張感をもって対応にあたっている。</p> <p>○特にいじめについては9件を認知し、うち2件をいじめとして認定した。認定した2件について慎重かつ丁寧に対応し、100%の解消率を達成している。</p> <p>○職員側はいじめ対策や悩み相談について受け止める体制を整備しているが、生徒からの認識はあまり向上しなかった。また、約3分の1の生徒は教師を信頼して相談できない様子であり、問題の早期解決の支障となる可能性がある。今後、生徒と保護者に対して相談を受ける体制をPRし、学校側に対する信頼を向上させるとともに、いじめ等の問題の早期解決を取り図らうこととした。</p> <p>○2学期の欠席率は4.5%で、1学期の2.4%に比べ大きく増加した。遅刻についても同様の傾向があり、一部の生徒が繰り返し遅刻・欠席をしている様子が見られた。長期にわたり遅刻・欠席を続ける生徒については、生徒と保護者に粘り強く対応し、状況に応じてスクールカウンセラー（SC）への相談を案内したり、医療へ繋げるようにしている。</p> <p>○部活動や研究活動へ参加する生徒が減少する傾向が続いている。これに対し、放課後や休日にアルバイトをする生徒が増加しており、生徒の放課後の過ごし方は多様化が進んでいる。</p>	<p>理由なく遅刻、欠席を繰り返すような生徒は、立派な人間になれない。約束事、決まり事を守ることの重要性、必要性を教示すべきである。</p> <p>SNSの普及やコロナによる生徒・保護者の価値観の変化の中で、生徒に寄り添い丁寧に指導されていると感じた。</p> <p>いじめ対応含めた相談体制の信頼性についてはアンケート結果も今ひとつであり、改善が必要だと思われる。生徒に「話しても無駄」と思われぬよう、傾聴のスキル向上をお願いしたい。</p> <p>部活動の所属率は今の時代数値目標にいれるのは如何かと思う。</p> <p>発達段階がパーセンテージに大きく影響していると思う。教員の働きかけが生徒に見えにくい側面もあるのではないか。教員と生徒の日頃のコミュニケーションが大切な手立てになり得るのではないか。</p>
B	C 66.2%	C		
B	C 欠席16人 遅刻11人	C		
A	A 71.0%	A		
B	A 91.9%	A		
B	A 84.4%	A		
B	A 6.7回	A	<p>○webページの更新頻度は月平均5回以上を達成した。生徒や保護者が定期的に閲覧するほか、外部に対する広報手段として有効なものとなっている。今後も積極的な更新に努めるとともに、webページ以外の広報手段（youtube等）による発信を検討する。</p> <p>○GSMメールの発信は適宜行っており、ほとんどの保護者が利用している。欠席等の連絡もGSMで行えるようにしたところ、多くの保護者が利用するようになった。保護者宛の通知をGSMメールで伝えることは徹底できなかったので改善する。</p>	<p>webページの更新、GSMメールの発信等により保護者からの評価が高いことに加え、泉農フェアについては地域の方々から非常に好評であり、開かれた学校づくりにつながっている。</p> <p>特設の課題は無いように思われる。引き続き推進していただきたい。</p>
A	A 87.4%	A		
B	A 95.5%	A	<p>○ICTを活用した指導はほぼすべての職員が行っている。生徒の満足度も高い。授業におけるGoogleサービスの利用について職員研修（模範授業研究）を実施する等、今後もICT活用を推進していく予定である。</p> <p>○本年より運用を開始した「kinako」については、一年間を経てすっかり業務に定着した感がある。3月よりさらに機能が拡充し利便性が高まる予定とのことなので、職員に周知を図りながら業務改善に繋げていきたい。</p>	<p>ICTを活用した授業に満足していると回答している生徒が9割以上となっている一方、約7割の教職員がICTを活用した授業に自信がないと回答しており、向上心を持った意欲的な教職員が多いと考えられる。今後ICT活用については教職員の負担軽減も含め、更なる効果的な活用に取り組んでいただきたい。</p>
B	A 80.2%	B		